こども新聞
週刊かほピョンプレス
毎週日曜発行
2019 2/3
河北新報社 TEL.022-211-1111（月曜から金曜）

きょうの紙面
2 サイエンス
3 3分チャレンジ
4・5 いいね 小学校
6 英語
7 河北春秋書き写し
8 投稿特集

2019ねん 亥年あれこれ ④

幸せ願い手作りの堤人形

置物

干支の置物は縁起がいいといわれ、新しい年の幸せや無事を願って飾る習慣があるんだね。かほピョンは、仙台に古くから伝わる堤人形の置物がお気に入り。青葉区堤町にある「つつみのおひなっこや」で、堤人形を作る佐藤明彦さん（51）に話を聞いたよ。

ぽってりした形、明るい色合い、すべすべした肌触り。勇ましさの中に、かわいらしさと優しさがのぞく表情。佐藤さんが一つ一つ手作りした亥年の置物です。

12年前のものより体がふっくら丸くなりました。「見る人の心を和ませたい」と願うと、自然にこうなったとか。もう一つ違うのは、光沢のある白いイノシシを作ったこと。胴には梅や松の縁起のいい柄が描かれています。「平成の次の新しい時代が明るく輝くように」と佐藤さん。手にした人が未来を自分らしい色で染めてほしい、という願いも込めたそうです。

堤人形は、300年以上前から伝わります。現在も地名の残る堤町で、地元の土を使いかめやつぼなどを焼く「堤焼」が広まりました。冬は土が凍り、焼き物が作れません。冬の間の仕事として、職人たちは土人形の絵付けをしました。これが堤人形の始まりです。工房は親しみを込めて「ひなっこや」と呼ばれ、昔は軒を連ねましたが今はわずかに残るだけです。

佐藤さんが作った2019年の干支置物。今にも話しかけてきそうな豊かな表情。連絡先は、つつみのおひなっこや＝仙台市青葉区堤町２の10の10＝電話022（233）6409

堤人形は初めに土で「原型」を作ります。仕上がりの形の元となるものです。これに石こうをかぶせてかたどり、「型」を作ります。通常、型は左右一対です。次に型に土を詰め、固めて外す「型抜き」をします。型抜きした素材は、1～2週間陰干ししてゆっくり水分を抜いて、窯で十五、六時間かけて焼きます。焼きすぎると色の乗りが悪くなり、焼き足りないと壊れやすくなるため、窯の温度や焼き時間に注意します。最後に色を付けて完成です。

佐藤さんが一番ワクワクするのは、原型を作るときだそう。「作りたいものをあれこれ思い浮かべるのは楽しいですよ」

◇

「つつみのおひなっこや」には、おひなさまや招き猫の堤人形もたくさんあったよ。みんなもおうちの人とお店に行ってみてはどう。

今週の注目ニュース

◇4日（月）　**さっぽろ雪まつり**（～11日、札幌市）

アメリカの人気映画シリーズ「スター・ウォーズ」のキャラクターや、日本とフィンランドの外交関係100周年を記念した「ヘルシンキ大聖堂」の雪像が披露されるよ。

◇6日（水）　**やなせたかし文化賞**（高知県香美市）

「アンパンマン」の作者で、2013年に亡くなった漫画家やなせたかしさんの遺言でつくられた賞の初の受賞者が発表されるよ。子ども向けの優れた漫画や絵本などの作者に贈られるんだ。